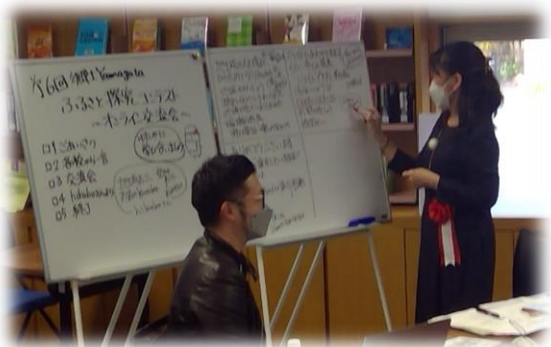


令和3年度 山形県「郷土愛を育む活動推進事業」

郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト実践記録集

山形県教育委員会



御挨拶

山形県教育委員会では、本県教育の目指す姿と施策等を示した「第6次山形県教育振興計画」の基本方針の一つに「郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する」ことを掲げております。この取組みの一環として、児童生徒の皆さんが、自分の住んでいる「郷土やまがた」と向き合い、学んできた成果を広く発表し合うコンテストを、11月の「やまがた教育月間」に合わせ開催しており、今年度で6回目となりました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中で、29校、77チームにエントリーをいただきました。コロナ禍にあっても、多くの学校において、郷土に誇りを持ち、様々な工夫を凝らしながら活動を継続し、地域の良さを伝えようとする機運が着実に浸透してきているものと考えております。

最終審査会は、初めて、各学校と審査会場を結んでのオンライン開催といたしました。一次審査を通過した9チームの皆さんの発表では、小学生・中学生・高校生それぞれの発達段階に応じた探究型学習の成果が披露され、ICTを活用して郷土の良さを発信する姿は、正にウィズコロナ・アフターコロナの本県の担い手として大変頼もしく、質の高いコンテストとなりました。また、会場をはじめ、オンラインで観覧された方にも、郷土やまがたの良さ、魅力を再発見する機会になったと思います。

この記録集をご覧いただき、各チームの実践を振り返るとともに、これからの学習の更なる充実・発展に役立てていただければ幸いです。

最後に、最終審査会の司会進行を務めてくださった県立山形北高等学校放送部の皆さん、このコンテストの審査員となっただき、小学生・中学生・高校生それぞれの成長に資する的確な評価と温かい励ましの言葉をいただいた沼野慈様、堀川敬子様、渡部泰山様に、改めて深く感謝申し上げます。



山形県教育委員会教育長
菅間 裕晃

「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」とは？

<趣旨>

小・中・高校生による地域を素材とする学習及び体験活動の成果を募集し、優れた取組みを表彰することで、自分の住む地域の自然や文化、歴史、偉人などのふるさとの良さを発見・再確認し、郷土に対する愛着や誇りを育みます。これらの取組みを広く発信することで、小・中・高校生がお互いの地域の良さを知るとともに、保護者や地域住民にとっても、地域の魅力を再認識する機会にします。

<審査方法>

一次審査：審査員による書面審査で最終審査会参加校選出
(小・中・高校生の各部門3チーム)

最終審査：プレゼンテーションによる発表(1チーム7分間) **オンライン開催**

参加校と審査会場を Zoom でつなぎ、各チームがオンラインで発表した内容を審査し、各部門の最も優れたチームに「ふるさと探究大賞」を授与

開催日：令和3年11月20日(土)13:00～ 審査会場：遊学館

審査員

沼野 慈 審査員

企業で食品添加物や食材の研究や特許開発に従事した経験から、食の安全や女性の就労環境、子育て問題等に強く関心をもつようになり、地域活動家となる。現在、NPOもがみ理事長等を務める。

堀川敬子 審査員

東京からのUターン後、青年会議所や商工会議所青年部などで、地域活動に参画。NPO法人天童NP O支援サロン理事、山形県まちづくりサポーター等を経て、現在は「逢いの蔵」共同代表。

渡部泰山 審査員

東北芸術工科大学特命教授。専門分野は学校経営学、教育と芸術学。山形県内高校で教諭、教頭、校長を務める。山形県教育次長、山形東高校校長を歴任。山形大学の教授を経て現在に至る。

司会進行

山形県立山形北高等学校放送部



樽石羽琉 さん



卯野優菜 さん



秋葉純音 さん

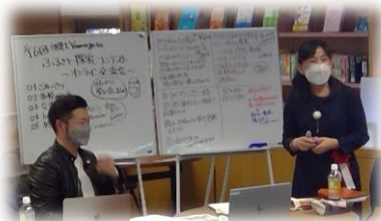
画面を見てタイミングを計りながらスムーズに進行して下さるとともに、全ての発表に対して、内容に沿ったコメントをそえるなど、心温まる司会進行をしてくださりました。

オンライン交流会

今年度は、参加校同士で、感想や発表を通して学んだことを伝え合うオンライン交流会を行いました。

ファシリテーター(司会進行)：工藤 美季(くどうみき)氏
元小学校教員。現在は、ホワイトボード・ミーティング®認定講師として、学校の校内研修会や商工会議所等での研修会講師を務めている。

コメンテーター：hikabo(金森輝 かなもりひかる)氏
大学卒業後、東京のITベンチャー企業で自身が考案したSNSを活用した新規事業の立ち上げに携わる。2020年にUターンし、SNSを通して山形のお酒の魅力について情報発信を行っている。



令和3年度郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト 次第

日時: 令和3年11月20日(土) 13:00～
場所: オンライン開催(審査会場: 遊学館)
司会: 県立山形北高等学校放送部

1 開会式 (13:00 ～ 13:10)

(1) 山形県民の歌「最上川」斉唱 村山市立楯岡小学校合唱部(動画による)

(2) あいさつ

山形県教育委員会 教育長



コロナ対策のため、会場での斉唱は行わず、村山市立楯岡小学校合唱部の皆さんが県民の歌を歌う動画を紹介しました。

2 発表 (13:10 ～ 15:00)

(1) 小学生部門 (13:10 ～ 13:40)

- ① 天童市立寺津小学校 「寺津手人形を復活させよう」
- ② 東根市立長瀬小学校 「長瀬大好きプロジェクト～地域に学ぶ 未来につなぐ～」
- ③ 鮭川村立鮭川小学校 「鮭川歌舞伎の魅力を伝える」

(2) 中学生部門 (13:50 ～ 14:20)

- ① 東根市立大富中学校 「『大富農業カンパニー』としての『地域貢献』を探究する」
- ② 最上町立最上中学校 「最上町歴史かるたプロジェクト」
- ③ 米沢市立第四中学校 「地域・社会の中の私たち」

(3) 高校生部門 (14:30 ～ 15:00)

- ① 山形県立山形東高等学校 「山形ハッカを県内に広めよう」
- ② 山形県立村山産業高等学校 「鳥獣被害対策活動の実践 ―私たちにできる対策活動―」
- ③ 山形県立置賜農業高等学校 「ダリアのウイルス病対策！ 地域と連携した川西町の花『ダリア』普及拡大への挑戦」

3 参加校同士によるオンライン交流会 (15:10 ～ 16:00)

ファシリテーター：工藤 美季 氏 コメンテーター：hikabo 氏

4 表彰・閉会式 (16:05 ～ 16:30)

主催 山形県教育委員会

11月第2土曜日

は
やまがた教育の日

～ふるさと納税に寄附いただきました～

この度、用途明示型ふるさと納税特定プロジェクト「郷土Yamagataふるさと探究コンテスト」に寄附いただきました。寄附金は、開催に係る準備、運営に活用させていただきます。

御芳名 香川県高松市 大畑 一 様

御寄附いただき、ありがとうございました。

ふるさと探究大賞

てんどうしりつてらぶしょうがっこう
天童市立寺津小学校

てらぶ ねん くみ てらぶしょう てにんぎょうしばいほぞんかい
寺津4年1組 寺津小 手人形芝居保存会

上野 寧音 太田 心美 鈴木 希空 長瀬 琥太郎 向田 葉太 村上 康介



「寺津手人形を復活させよう」

1 テーマについて

昔、寺津でおこなわれていた寺津手人形芝居を自分たちが復活させようと考えました。それを伝えることで地域の人に楽しんでもらったり、寺津に住んでいない人に寺津のことを知ってもらったりして、寺津を笑顔いっぱい町にしたいと考えたからです。

2 テーマに基づく活動について

活動のきっかけは、総合的な学習の時間に、寺津の名物について知りたいと思い、自分たちで資料やインターネットを使って調べたり、公民館館長にインタビューしたりしたことです。

寺津公民館館長へのインタビューから寺津手人形芝居の存在を知り、天童織田の里歴史館館長さんに遠隔（Zoom）で展示されている寺津手人形を見せていただいたり、寺津手人形保存会の穂波さんから劇の内容や歴史について、実物を見せていただきなが

ら話をうかがったりしました。

そして、手人形を復活させるために何ができるか考え、以下の活動を行いました。

- ① 寺津手人形保存会の穂波さんから寺津手人形芝居の口上の述べ方を教えていただきました。
- ② 昔の映像を山形放送（YBC）から送っていただき、その映像を見て、当時の様子を知る。
- ③ 西沼田遺跡公園に保存されている寺津手人形の数や種類、保存方法を天童市教育委員会の生涯学習課の方にインタビューする。
- ④ 天童織田の里歴史館の元館長さんに遠隔（Zoom）で、寺津手人形芝居の台本の意味や漢字の読み方をうかがい、台本を作成する。
- ⑤ 人形の着物の作り方を地域の鈴木さんに遠隔（Zoom）で詳しく聞き、人形の着物を作る。
- ⑥ やまがたメーカーズネットワークのご



協力の下、3Dプリンターで寺津手人形のレプリカを製作する。

3 これからの活動に向けて

10月30日（土）に学習発表会で「寺津小手人形芝居」を発表し、他の学年や保護者にこれまでの学習の成果を伝えたと、大好評でした。

その他、パンフレットを配付したり、本校のホームページに動画を掲載したり、地域の方に発表したりしました。また、織田の里歴史館での企画展にも出品し、たくさんの人に見ていただきました。これからも、寺津の伝統文化を多くの人たちに伝えていきたいです。



ふるさと探究大賞

最上町立最上中学校

最上町歴史を愛する会

大澤 侑夏 阿部 夢希 齋藤 由翔 結城 遼大

後藤 思澄真 齋藤 陽 菊川 結依香 柴崎 歩美花



最上町歴史かるたプロジェクト

1 テーマについて

「かるた」を通して、最上町の歴史を町内外の小中学生へ広め、最上町民に今まで以上に最上町のことを知り、理解し好きになっていただきたいと思い、活動を進めました。

2 テーマに基づく活動について

最上町には、大きな課題があります。それは人口減少問題です。この課題を、解決し、町を活性化できないか考えた時、大好きな歴史を活用した「かるた」づくりにたどり着きました。

最上町の歴史かるたを作成するために、まず、最上町の歴史について情報収集を行いました。そんな時、町の広報誌で「最上町歴史ロマンを欲する会」の存在を知りました。会の皆さんから多くの歴史情報・資料を提供いただいただけでなく、一緒に史跡を巡っていただきました。

次に、情報を分析し、読み札を作成しました。50音に当てはめて、短い文章にまとめます。人物の紹介では、短い文章で人柄を想像してもらうことがとても難しかったです。

読み札の次は、絵札です。見て楽しく、誰からも楽しんでもらえるように「水彩画風」「まんが風」「ゆるキャラ風」と様々なタッチで描きました。

こうして出来上がった「最上町歴史かるた」の発表会には、最上町役場の方、地元の小学生などを招待しました。想像以上に反響が大きく、「町の魅力に気付いた」「歴史の町 最上町に誇りをもった」という声とともに「商品化してほしい」といったうれしい意見をいただくことができました。

そこで、かるたの商品化に着手しました。印刷業者さんと交渉し、商品化



を進める一方で、普及活動も行いました。学童保育所との交流会で、実際に遊んでもらい、改善点を見つけることができました。今後、町民かるた大会の開催や、修学旅行先の東京での販売を計画しています。

3 これからの活動に向けて

活動に取り組んだときは、「最上町歴史かるた(モノのデザイン)」+「イベント化(コトのデザイン)」の関係で、かるたで町を活性化することを考えていました。しかし、プロジェクトを進めていくと想定を超えて様々な可能性が生まれました。「最上町歴史かるた」×「イベント化」の関係だと感じました。(足し算ではなく、掛け算のイメージ)

町から「ふるさと納税の返礼品にしたい」という話をいただくなど、本プロジェクトは町に新しい価値を生み出しました。これからも、最上町の一員であるという「自覚」を持ち、町を思い、町のためにできることを探っていきたいです。





ダリアのウイルス病対策！ 地域と連携した川西町の花『ダリア』普及拡大への挑戦

1 テーマについて

私たちの学校がある川西町の花は、「ダリア」です。日本一の観光ダリア園があり 8～10 月は 10 万本の花が咲き誇ります。また、切り花生産も盛んで、生産量は全国3位の 96 万本です。

ところが、ウイルス病による品質と収量の低下は深刻で、農業経営の危機に追い込まれる農家もあるほど大きな問題となっています。そこで、私たちダリア研究班8名は、農業高校の学習を活かし、ウイルス病対策として「植物バイオテクノロジー」で学んだ茎頂培養からウイルスフリー苗を作出するとともに、川西ダリア生産部会の皆さんと連携しながら高品質のダリアを栽培する技術の普及を目的として活動を展開しました。

2 テーマに基づく活動について

活動は令和元年から開始しました。1年次はウイルス病の現地調査を実施、2年次は新型コロナウイルス感染症対策により思うように進められないこともありましたが、茎頂培養に取り組み、試行錯誤

を繰り返しながらもウイルスフリー苗を作出して実証栽培を実施しました。3年次はウイルスフリーダリアの有用性について地域農家の理解を深められるよう普及活動を行いました。活動の成果は、次のとおりです。

① ウイルスフリー苗の作出と普及

茎頂培養からウイルスフリー苗を作出しました。山形県園芸農業研究所の技術指導を受け鑑定を行い、ウイルスフリーを確認しました。

② 高品質切り花生産の確立

ウイルスフリーを活用して「高品質切り花生産」をめざした結果、10 m²から 400 本収穫し、「秀品」率を 80% 台に向上できました。

③ 普及活動

ダリア生産農家で延べ 10a、500 本のウイルスフリー苗を導入、実証栽培を実施しました。

農家の方からは、「生育旺盛でウイルスフリー効果を実感できます。ダリア栽培最大の課題、ウイルス病対策に高校生が取り組むことは力強いです。」との声をいただきました。現

在、66aで栽培され、ダリア産地のブランド化に向け取組みを継続しています。

これまでの取組みは、農林水産省や学会で展示したり、成果を発表したりしています。東北ダリア名花展では、私たちのオリジナル品種「十七彩」が金賞を受賞し、知名度の向上につながりました。

さらに、中国北京への輸出が実現し、好評を得ました。海外市場開拓による消費拡大の大きな一歩を踏み出すことができました。

3 これからの活動に向けて

ダリアは花型と花色が豊富で、彩鮮やかです。町の花であるダリアのために、今後、優れた品種のウイルスフリー化を図ること、周年栽培の技術を確立すること、さらに、ウイルス病再感染予防法を確立します。私たち高校生が主体となり、地域の宝であるダリアの普及と定着を図るため、これからも積極的に活動を展開します。



ゆうしゅうしょう 優秀賞

ひがしねしりつながとろしょうがっこう 東根市立長瀬小学校

ひがしねしりつながとろしょうがっこう 東根市立長瀬小学校 フル☆フル 6年

安達 陽樹 梅津日和理 大内 望裕 奥山 未唯
鈴木 愛 鈴木 菜緒 福富 陽琉 森谷 望生 渡辺 明葉



ながとろだいす 「長瀬大好きプロジェクト」～地域に学ぶ 未来につなぐ～

1 テーマについて

わたしたちの住んでいる長瀬地区には、「想画」という地域の宝があります。戦前から想画教育を行い、戦争後のいまでもたくさんの作品が残り、市の有形文化財になり保管されているながとろしょうがっこう 長瀬小学校。この想画を詳しく知り、ながとろのよさに気付くために「長瀬大好きプロジェクト」に取り組みました。

2 テーマに基づく活動について

「長瀬大好きプロジェクト」として初めに取り組んだ活動は、想画の歴史を知ることです。大人が描いた絵を手本としてまねて描くのが当たり前だった時代に、生き生きとした生活をありのままに表現したものが「想画」です。そして、指導してくれた先生方がいたこと、地域の方々の努力に気付きました。

次に、想画を語る会や東根俳句会の皆さんと俳句づくりを行いました。俳句の基本的な約束だけでなく、身近な場面で感じたことや思ったことを素直に表現することが大切だと教えて

もらいました。次は、俳句を「書(読み札)」にしました。お堀に浮かべた時のことをイメージしながら、堂々と力強く書きました。

今度は、俳句に表した場面を絵にしました。「想画を語る会」や想画を研究している大学の先生から描き方を教えてもらいました。たくさんアドバイスをもらって、自分の想画が完成しました。そして、出来上がった想画を、授業参観のとき、うちひとと一緒に木柵にはめ、組み立てました。自分だけの想画ができあがり、満足感でいっぱいでした。

8月13日に「二の堀灯ろう祭り」が始まりました。みんなで灯ろうに火を入れ、二の堀に浮かべました。お堀に浮かんだ灯ろうはとても幻想的で美しい明かりでした。温かい色の明かりを見ながら、ながとろにこんな素敵な伝統があることに気が付き、「長瀬っていいな。」「この伝統がいつまでも続いてほしいね。」と話合いました。

その他にも長瀬地区にはたくさんのおこなでんとうれきしがあります。その歴史を知るために、「長瀬地区ウォークラリー」を行いました。縦割り班の人たちと協力して地区内をめぐる、クイズやミッションに取り組み、楽しく長瀬の歴史を学びました。低学年にも長瀬のことをていねいに説明しました。自分たちが調べたことをしっかり伝えることがで



きな、学んでよかったですと実感しました。私たちも今まで知らなかった文化財や自然の素晴らしさに気付くことができました。

この「長瀬大好きプロジェクト」を行い地域の様々な団体と連携して活動することで、「俳句をつくる」「想画を描く」など普段の授業ではできない本物の体験をすることができました。

3 これからの活動に向けて

これからも、この文化を大切にしながら、長瀬に生まれ育ったことに誇りをもち、宝を未来につないでいけるよう活動を続けていきたいです。



ゆうしゅうしょう 優秀賞

さけがわそんりつさけがわしょうがっこう 鮭川村立鮭川小学校

さけがわかぶきちょうさいたい 鮭川歌舞伎調査隊

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 阿部 花音 | 阿部 飛翔 | 伊藤 雄大 | 井上 綺桜 | 井上 和花 | 梅津 樹 | 梅津 紗衣 | 奥山 結衣 |
| 小野瑠希明 | 熊谷 夏葵 | 黒木 紬 | 黒坂 大洋 | 黒沼 千愛 | 堺 宙汰 | 佐藤 琉貴 | 鈴木 絆音 |
| 高橋 宗利 | 土田 寧々 | 津藤 颯太 | 津藤 孟 | 早坂 琴音 | 堀米 杏莉 | 堀米 瑛太 | 堀米 健吾 |



さけがわかぶき みりよく つた 鮭川歌舞伎の魅力を伝える

1 テーマについて

ほんこう 本校では、5年生が学習発表会で、さけがわかぶき 鮭川歌舞伎の演目を演じる発表をしました。コロナウイルス感染予防のため断念しました。

それでも、歌舞伎について調べ学習を進め、他に発表の方法はないか話し合いを重ね、学習を進める中で自分たちが感じた「鮭川歌舞伎の魅力」を伝える発表をすることになりました。



2 テーマに基づく活動について

さけがわむら 鮭川村には代々伝わる伝統芸能が4つあります。「羽根沢節」「段の下田植え踊り」「鮭川歌舞伎」「清流さけがわ太鼓」です。しかし、どれも、後継者不足が深刻化している現状があります。これらの伝統芸能を継承するために、ほんこう 本校では、小学校3年生から6年生のそごうてき 総合的な学習の時間の中で、各保存会 会の指導者からご指導をしていただき、がくしゅうはっぴょうかい 学習発表会で発表しています。

こんかい 今回の学習で、演技だけでなく、① 道具 ②衣装 ③歴史について調べ、調べたことは、クイズを作ったり新聞にまとめたりに伝えました。



はっぴょうかい 発表会を観覧したおうちの方からは、「これまでとは違った形で鮭川歌舞伎

の魅力をを知ることができた。」「クイズ形式になっていて、自分も勉強になった。」などという感想があり、大人にもさけがわかぶき 鮭川歌舞伎の魅力を感じてもらうことができました。



3 これからの活動に向けて

げんざい 現在、コロナ禍の影響を受け、さけがわむら 鮭川村「子供鮭川歌舞伎」の活動は中止になっていますが、「再開したら入って活動したい」という子も増えました。さけがわかぶき 鮭川歌舞伎をよく知ることで魅力を感じ、保存会の熱い思いを感じることで「これからも守っていききたい」という児童も増えました。

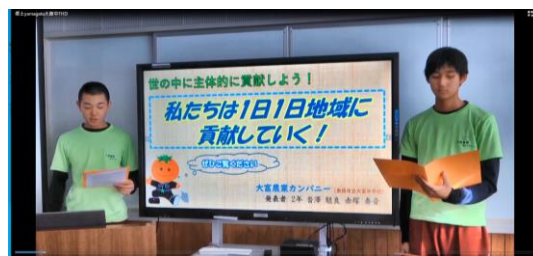
こんご 今後も、鮭川村が好き、そして将来、さけがわのこ 鮭川に残って継承していきたいというひとりが一人でも増えるよう「鮭川村伝統芸能」を学び続けていきます。



東根市立大富中学校

大富農業カンパニー

沓澤 魁良 赤塚 音



『大富農業カンパニー』としての『地域貢献』を探究する

1 テーマについて

7月10日(土)に1周年を迎えた「大富農業カンパニー」。昨年度は、自分が好きな農業で地域貢献したいという思いから、野菜や果物を育てて、敷地内の無人直売所で販売しました。

今年は、「地域貢献の仕方」について、これまでの取組等を振り返り、考え、実際に活動し、評価することで、更に高めていくことをねらいとしました。

2 テーマに基づく活動について

昨年度、道徳の時間に無人販売所の勉強をしたことをきっかけに「大富農業カンパニー」を立ち上げ、「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」で優秀賞を受賞。今年度は、「続けることが最も大切であること」と「貢献の仕方についてもっと広げてみる」ことを目的として、以下の活動を行いました。

① 農業を通しての地域貢献は、冬、活動がうまく行きませんでした。そんな時、担当の先生に「そもそも、大富農業カンパニーの『最大のねらい』は何？」と聞かれ、ドキッとしました。

地域貢献と言いながら、自分たちが満足する活動をするのがねらいとなっていました。そこで地域の声を聞いてみると新聞や空き缶を捨てる機会がなく、高齢者宅には、冬季にいつぱいたまってしまうという話がありました。

資源回収は、春と秋に行われまです。私たち「する側」の都合が良いからです。冬季は大変ですが、相手のためにすることこそ「地域貢献」だと考え、学校の先生や生徒会の協力を得て、少しずつ(8回に分けて)実施しました。この売上で、今地域が必要なものの寄付や、来年の農業の資金をつくることができました。何より、資源回収の時、多くの方に「ありがとう」と言われたことがうれしかったです。

② 自分たちの活動を応援してくれた、村山産業高校を訪問し、校長先生と教頭先生から激励と助言をいただきました。校長先生の「作物をつくるだけではなく、その作物が活きるための学習(栽培・商標・加工・農機等)

がこれからの農業で大切なことです。実際に実践している大富農業カンパニーだから今後も応援させていただきます。これぞ探究学習です。更に探究してください。」という助言が心に残りました。

相手のために活動することが、「大富農業カンパニー」で大切にすることであることに気付くことができたことが、最も大きな成果です。

3 これからの活動に向けて

農業を通して地域貢献を大事にしているので、更なる野菜の品質向上やビニールハウス栽培、菌類(きのこ)の栽培について考えていきたいです。

また、食品ロス(直売所売れ残り)や私たちができる加工製品について、冬季の貢献方法、販売作物・製品についても学習したいです。

大切なことは「続けること」だと思うので、これからも持続可能な「地域貢献」の方法について考えます。



米沢市立第四中学校

米沢市立第四中学校 1 学年

安部 潤哉 本間 桃奈 渡部 響 平 果南子
鹿野 陽聖 遠藤 陽妃 小関 藍 鎌田 悠希
神西 皆実



地域・社会の中の私たち

1 テーマについて

今年、米沢市がSDGs未来都市に選定されました。私たちは「地域・社会のなかのわたし」をテーマに、学習を行っていますが、SDGsの視点で持続可能なまちづくりに中学生がどう関われるかを考えました。

2 テーマに基づく活動について

様々な世界や地域の“ひと・こと・もの”とつながり、多様な価値に触れ、自分の身近な世界(学級・学年・友達・家族)とより良く関わり、“持続可能な社会をつくること”について、教科横断的に学びを深めてきました。主な学習は次のとおりです。

① 学びのテーマを確認しよう

- ・ SDGsってなんだろう。私たちが目指す社会とは？
- ・ 私たちが住む地域“米沢”について知ろう
- ・ 米沢の強み・弱みを、個人→グループ→学級の流れで分析しよう

② 世界とつながり、世界から地域や自分を見つめよう

- ・ リアル朝のラリー
イギリス・カンボジア・ルワンダと

インターネットでつながり、歴史や文化の相違点、地理的なこと、コロナ禍の今の様子を、ライブで映像を見ながら双方向で学習しました。

また、現地で働く日本人から、多様な価値観、働き方などについてお聞きし、自分らしい生き方について考えることができました。

・ 世界の課題を体験する

世界の貿易を疑似体験し、経済のグローバル化が引き起こす問題や国際協力の在り方を考えることができる貿易ゲームを行いました。世界の不均衡を知り、様々な課題解決に向けてよりよい行動について考えました。

③ 米沢をめぐる、自分たちが住む地域を知ろう

米沢市がSDGs未来都市に指定された背景には、米沢藩9代目藩主上杉鷹山の政策があります。人材育成を中核に、経済・社会・環境に



ついて考えた鷹山の政策は、現在のSDGsに通じるものです。改めて上杉鷹山の業績や米沢の歴史・文化を学ぶために米沢巡りを行いました。城下町の歴史を知る史跡、現代の都市計画やまちづくりに関わる施設など学区の特色を捉えなおすことができました。

④ 持続可能なまちづくりについて考えよう

米沢市未来都市室長から「SDGs未来都市選定について」のお話を聞き、上杉鷹山が誰一人取り残さない藩政を進めてきたこと、その柱が人材育成であったことを学びました。

3 これからの活動に向けて

10月のフィールドワークを経て、“持続可能な街づくり”に向けて、中学生の視点でアクションプランを考え、市役所でプレゼンテーションを行いました。私たちが提案した75のアイデアは、「どれも素晴らしい」と評価していただきました。「米沢の未来をつくるのは私たち」という思いを持ち、今自分でできることを探し、実行していきたいです。



山形県立山形東高等学校

山形ハッカプロジェクト(チーム)

小松 優子 豊原 万葉 丸子 実桜 千場 花凜

深瀬 智紗都 高橋 咲彩



山形ハッカを県内に広めよう

1 テーマについて

ハッカという作物はもともと、山形県天童市高掬地区において、盛んに栽培されていましたが、現在は衰退し、ハッカ農家は数件のみになっている状況です。また、天童地域では今でも道端に生えているなど地域に密着し、とても魅力的な植物であるのにも関わらず、山形のハッカの存在は山形県民にもほとんど知られていません。そこで山形ハッカの存在を多くの人に知ってもらうことを目標に活動してきました。

2 テーマに基づく活動について

知名度を上げるためにも、ハッカを育てるだけでなく、ハッカを原料とした商品開発ができないかと考える様になりました。

そこで、主に2つのグループに分かれて活動しました。

① 天童高掬チーム

- ・ モンテディオ山形イベントブースへの出店

ハッカの歴史を伝えたいが、話を聞いただけでは心に残らないと考え実際にハッカに触れてもらい

ながら話をするワークショップを開催しました。また、ハッカの周知のために花束を作成し、300束配ることができました。地域の方々との直接的な交流を通して、山形ハッカに興味を持っていただきました。一方で、ワークショップと歴史の説明を同時に行うのは予想以上に難しく、うまく伝えることができなかったことが課題として残りました。今後、地域の方に歴史を伝えるツールになるよう絵本やパンフレットを作成していきたいです。

② 商品開発チーム

- ・ コラボ商品の開発

山形ハッカをたくさんの人に知ってもらえるよう、過去にハッカの商品を出していた SLOW JAM 様とコラボし、「レモンハッカクッキー」と「ハッカバタフライピーティー」を商品化して販売しました。SNS を活用して広報した結果、「レモンハッカクッキー」は 492 枚、「ハッカバタフライピーティー」は 33 杯の売り上げを記録しました。購



入いただいた方々のうち 96.7% が「もう一度購入したい」と言ってくださいました。予想以上の売り上げがあり、認知度が上がったという手ごたえを感じています。

3 これからの活動に向けて

これまで、不特定多数の方に山形ハッカの歴史や存在、名前を知ってもらいたいという思いで活動を行ってきました。校内の中間発表での講評を受け、何を目標として歴史を伝えるのかを考えなければいけないこと、知っていただいたあとどうするかについて考えていく必要があることに気が付きました。

今後の展望として、「山形ハッカが生活に取り入れられている未来をつくる」という新たな目標をもって活動を行

っていきます。私たちの活動を通して、山形の隠れた魅力「山形ハッカ」を伝えていきたいと思



山形県立村山産業高等学校

農業環境科 鳥獣被害対策班

五十嵐 涼太 高橋 一史 松田 紘



鳥獣被害対策活動の実践 — 私たちにできる対策活動 —

1 テーマについて

近年、野生鳥獣による人間への被害が増加しています。村山市でもニホンザルの果樹食害、イノシシによるイネの踏み倒し、ツキノワグマのオウトウ・スイカ等の食害・住宅地付近への出没などが頻繁に発生し、野生鳥獣捕獲実績が、令和2年度はこれまでで最も多くなっています。この現状に危機感を抱き、鳥獣被害の軽減を目的としてプロジェクト活動を始めました。

2 テーマに基づく活動について

村山市猟友会の方から村山市の鳥獣被害の現状と現在行われている対策について講義をいただいた結果、高齢化・人手不足で活動を継続していくことが厳しい状況であることが分かりました。そこで、私たちにできることを考え、活動に取り組むことにしました。

① 野生動物鳥獣対策道具の作成

実際に設置されている囲い罠・箱罠の見学と現地の農家への視察を行うとともに、機械科の生徒と連携し、オリジナル箱罠の製作を行いました。

猟友会の皆さんから、指導・助言をいただき改良を重ね、村山市へ寄贈することができました。

さらに、野生鳥獣が忌避する効果があるとされる唐辛子・ハバネロを活用した忌避剤の作成試験を行いました。しかし、本校で飼育している牛で実験した結果、効果が薄く、まだ改良が必要であることが判明しました。

② ドローンを活用した省力化

猟友会の野生動物の見回り活動の支援に、私たちが授業で学んだドローンを活用できないかと考えました。歩きにくい場所では、ドローンでの監視が有効であると考え、三和技術コンサルタント(村山市)に協力いただき、ドローンに搭載したカメラを活用して見回り・鳥獣発見ができるか実験しました。結果として、草木が生い茂った中では、野生動物を見分けることが困難であること、野生動物は早朝や深夜に活動するため、サーモグラフィ画像による監視が可能であることがわかりました。

③ 地域全体への啓発活動

鳥獣被害対策は、地域の理解や地域への情報提供が重要であるため、ポスター・チラシの製作を流通ビジネス科に依頼しました。完成した作品を活用して、地域の掲示板や、回覧板で地域の方へ周知します。

3 これからの活動に向けて

鳥獣被害対策活動を通して、校内の学科を超えた連携を実施することができ、それぞれの専門学習につながりました。

また、猟友会の方と鳥獣被害の現状を見学した際、「鳥獣対策で、野生鳥獣に傷をつけることや命を奪うことへ反対意見が寄せられることもあるが、猟友会では市の依頼をもとに地域のために活動していることを理解してほしい。」と話していたことが印象に残りました。人間と野生動物の共存できる社会の在り方を考えながら、地域に貢献できるよう活動を続けていきたいです。



応募校・チーム一覧

- 【山形市立第七小学校】 かがやき学年 東大手門櫓改造計画隊
 【山形市立高瀬小学校】 山形市立高瀬小学校 6年どりーむ学年
 【天童市立山口小学校】 山口 SDGs
 【村山市立大久保小学校】 村山市立大久保小学校5年生
 【東根市立長瀬小学校】 フル☆フル 6年
 【尾花沢市立常盤小学校】 常盤大根プロジェクト 21(3・4年)
 【鮭川村立鮭川小学校】 鮭川歌舞伎調査隊
 【山形市立千歳小学校】 千歳小ハニーモニー学年
 【天童市立寺津小学校】 寺津小4年1組 寺津小 手人形芝居保存会
 【天童市立干布小学校】 天童市立干布小学校 6年1組
 【東根市立高崎小学校】 東根市立高崎小学校
 【東根市立大森小学校】 東根市立大森小学校
 【大石田町立大石田南小学校】 大石田大好き4年生
 【鶴岡市立大泉小学校】 鶴岡市立大泉小学校

- 【寒河江市立陵東中学校】 寒河江市立陵東中学校2学年
 【朝日町立朝日中学校】 朝日町立朝日中学校
 【東根市立大富中学校】 大富農業カンパニー(2年 沓澤魁良 赤塚奏音)
 【最上町立最上中学校】 ○奥山翔輝 ○最上の甘味 ○最上町歴史を愛する会 ○飯島大翔・菅善次・佐藤彩斗・丹羽涼音・星川真凜
 ○SRHY ○最上中学校ハロウィンメニューチーム ○チーム『もがみっ子』
 【米沢市立第四中学校】 米沢市立第四中学校 第1学年
 【小国町立小国中学校】 OGN 56 令和3年度第3学年
 【東桜学館中学校】 Orayonnant(土田美桜 戸村優衣 児玉和花奈) ○ken&sa(菊地聡太 岡田健祐) ○青野樹里・村上柚端葉
 ○さくらんぼ(仮)(古郡唯亜 武田葉奈 桜井樹里) ○うめぼし(安達愛日 大山柚夏 庄司藍) ○菅原悠暉・佐藤凪・高田美桜
 ○A ゼミ6班(大沼美月 佐藤優羽 黒沼実紗) ○チーム 48(川田優佳 和田小紋) ○KATO(加藤知大 笹川拓磨 山口あおい)
 ○山形県イメージ向上委員会(村上太菜 日比野禾也 柴田悠登) OBT(秋場一磨 今井美瑠 星川心花)
 ○Moniya I(大河原康太 高橋善寿 藤平恭子 松本晃太郎) ○山形もちごめプロジェクト(本間陸人 江崎詩依奈 児玉実知花)
 ○シータモモキング(大沼十斗 山田聖大 設楽佳俗) ○元気チーム(井上徳士 笹原耀 佐藤秀徳) ○チーム A3(太田祥平 布施葵)
 ○ナマケモノ(神美優 山口光貴 渡辺千博) ○さくらんぼチーム(菅藤美羽 延沢綺音) ○Team Solar(五十嵐耀 木下真遥 松本諒哉)
 ○超神羅ギャラクシーオペレーションθ(岡崎航太郎 古沢拓真) ○お好み焼き(那須彩香 高橋佳奈 菊地涼太 奥山侑紀)
 ○チームりんご(浅黄結衣 加藤愛梨 古頭桃花) ○山形県少子化対策委員会(工藤伊織 武田祐樹 山川真慧)
 ○チーム3(高橋吉智 増川風雅 伊藤拓海 泉陽大) ○KSM(今野莉緒 庄司里桜 元木綾乃) ○納豆(泉椿咲 鈴木叶恵 楨千文)
 ○豊島美蘭・鈴木祐人・古瀬琳希・結城一葉 ○石黒陽己 ○笹原大嗣 ○伊藤潤 ○小澤碧衣 ○西塚國範 ○大沼ルナ
 ○原田未森 ○齋藤己鳳 ○阿部翔和 ○佐藤陽 ○丹野櫻子 ○加藤千佳 ○今井月音 ○駒林仁喜 ○丸川彩月

- 【山形東高等学校】 山形ハッカプロジェクト(チーム) 【山形中央高等学校】 山形しか CATAN
 【東桜学館高等学校】 ○東桜学館高等学校 Onewton 【村山産業高等学校】 農業環境科 鳥獣被害対策班
 【新庄北高等学校(定時制)】 3年次高橋拓・名倉幸奈・沼澤直乃輔・2年次佐藤飛龍
 【米沢工業高等学校】 Civil engineer 【置賜農業高等学校】 ダリア研究班
 【鶴岡南高等学校】 REBORN JOURNEY

令和3年度応募数
 小学校 14 チーム(14 校)
 中学校 54 チーム(7 校)
 高 校 9 チーム(8 校)

総 評

小学生部門



沼野 慈 審査員

正直、小学生がこれほどふるさとを探究し、これほど立派なプレゼンテーションができることに驚き感動しました。小学校の皆さんは、ふるさとの歴史、継承すべき文化に焦点を当てて探究学習を深めていったところに共通点があります。皆さんの活動をそのまましておくのは惜しいので、ぜひ、学校のホームページやその他広報媒体を使って広く周知しながら活動を広げていかれることを願っています。

どの学校の発表にも、「自分の住んでいる大切なふるさとを未来につないでいこう」という強い気持ちが出ており、たいへんうれしく思いました。ありがとうございました。

中学生部門



堀川 敬子 審査員

6回目で初めて、Zoomでの発表の審査を経験し、時代の変化を感じています。3校に共通していたのは、大人と関わることによって、「気づきがあった」、「役に立った」ということだと思います。皆さんもあと数年すれば大人になるわけですが、その途中過程において貴重な学ぶ機会を得ました。自分の力や可能性を広げていくためにも、大人との関わりが大切になります。「こんなことをやってみよう」と声に出せば助けてくれる大人がいるので、まず、声を出してください。

また、インプットしたことは、アウトプットすることが重要です。今は、いろいろな媒体があるので、伝える力を身につけながら、アップデートしていきましょう。

高校生部門



渡部 泰山 審査員

3校とも、優れたプレゼン能力と明瞭な発表する言葉を持っていたことが素晴らしかったです。コロナ禍の中で、人と関わりが制限される困難な状況にあっても、皆さんの発表が、しっかりと人と関わり、モノをデザインし、伝えるところまで、幅広く人と交流して作り上げる探究のプロセスを経て生まれたものだと実感しました。

インターネットが発達した現代は、あらゆる情報が手に入る時代です。しかし、皆さんの発表は、人と人との言葉を介在して関わりがなければ成り立たなかった探究の学びです。こういった体験が郷土を愛し、未来を切り拓いていく原動力になっていることを皆さんの発表から感じました。

本実践記録集や最終審査会当日の発表の様子の動画は、山形県ホームページで閲覧できます。「ふるさと探究コンテスト」で検索
 主催 山形県教育庁教育政策課 〒990-8570 山形市松波2丁目8番1号 TEL023-630-2692